

○ 本校の概要

○学校規模(児童数356名、学級数 12学級、教員数 18名)
○特色 児童も教職員も保護者も、誰もが「かつやく」する学校を目指しています。
児童は一人一人がそれぞれの力を発揮して、一生懸命学んだり活動したりし、主体的に学びます。教職員は「わかるまで教える」ために、教材を工夫し、意欲を引き出し、伝え合い学び合う場を設定します。保護者は「学びを支える」ために、規則正しい生活で、家族の時間を大切に、夢や希望を育てます。家庭・地域と連携し、地域力を生かした教育活動を推進しています。
○「知・徳・体」のバランスのとれた教育を目指しています。今年度も特に「学力向上」を重点として取り組み、児童の確実な基礎学力の定着を図ります。
○校区を流れる多摩川を活用した活動(異学年交流・マラソン大会・たこあげ・自然観察等)を通して自然環境への関心を高めます。また、理科教育推進拠点校として、特に「理科・生活科」の学習において、「進んで問題を見つけ、解決することができる児童の育成」を目指します。
○国語の学習において、「自分の考えを伝えるための表現力の育成」を目指します。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	人数	学校関係者記入欄 コメント				
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	生活の振り返りアンケートの「タブレットを使って調べ学習ができる」において、「よくできる」「どちらかというとできる」と回答した児童の割合	4: 90%以上	・令和4年度第21回ものづくり教育・学習フォーラム作品展示に3年生と6年生が参加した。3年生は校庭の土の採取から土器をつくるまでのものづくり活動を行い、展示発表で活動報告を行った。6年生は、国勢調査に使用されたナイロンバッグをリユースしてエコバッグを作り、作品の展示発表を行った。今後も、ものづくりを生かして様々な学年で取り組めるようにと考える。 ・ICT研修会で、タブレットの新しい機能の紹介や事例を取り上げ、全教員が取り組めるように周知した。ICTサポーターの協力を得て、来年度も引き続き、授業で使えるテンプレートや他校で行われた事例をまとめて研修を行い、授業実践ができるようにする。 (回答者数 186)	A	7	・学校の校庭の土を使った土器づくりは興味深い。地域の学校と連携した施策であったと聞き、こうした取組は児童にとって新鮮であると思われる。今後も続けていきたい。 ・ものづくりは今回のどちらの場合も創造性が磨かれていくプラスの面が多い。 ・第21回ものづくりフォーラムの受付を担当し、直接多くの展示作品を目にできた。南六郷小学校の作品紹介も見て来た。子どもたちの想像力や手指の細かい作業力やそれに伴う集中力が育まれていく取組だと感じた。 ・6年生の児童が、国勢調査で使ったナイロンバッグをリユースしてエコバッグを作成したとのこと、SDGsの取組の一環となっているようでとても良いことだと思う。タブレット端末を使って各学年に応じたSDGsの学びが広がれば良いと思う。 ・地域とのものづくりの繋がりがあって好ましいと思う。 ・タブレット端末は今後必要なツールである。機能も高くなっていくと想像できる。 ・ICT授業への取組のために、保護者、教員が共に学んでいくとともに日々IT社会に対して柔軟に対応していかなければならないと感じている。				
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4		3: 85%以上								
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4		3		3	B		3			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4		2: 80%以上								
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		1: 80%未満		D	0					
		サポーターを活用し、調べたいことを検索する力を付けられる授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4		1: 80%未満								
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	生活の振り返りアンケートの「授業が楽しい」内容がよく分かる」において、「よくあてはまる」「どちらかというとあてはまる」と回答した児童の割合	4: 85%以上	・算数到達度をステップ学習チェックシートで児童、保護者に伝えて成果と課題を確認し、次学期の学習に役立てることができた。<3～6年生>1学期は夏季休業中の個人面談時にタブレット端末のデータで、2・3学期はチェックシートで知らせた。<1・2年生>毎学期末にチェックシートを作成し、保護者に知らせた。シートの活用で、より効果的な家庭学習につなげていきたい。 ・大田区学習効果測定の結果や1学期に実施したテスト、昨年度の指導の振り返りをもとに、児童の学力や授業の定着度を的確に把握することができた。明確になった課題を基に授業の手立てや児童の支援方法を考え、授業改善推進プランにまとめることができた。まとめた内容は、教職員全体で共有し、2学期以降の授業に生かすことができている。 (回答者数 186)	A	7	・授業が楽しい、授業の内容がよく分かるということは、学校に行くのが楽しいということに結びつくのではないかなと思う。 ・算数の少人数制や保護者への到達度通知などの取組が、より効果的に学習意欲の向上等につながっているのではないかと感じている。また、学校から家庭、そして家庭から学校へと、学習に役立っていける形になっていければ良いと思う。 ・タブレット端末を活用した教育はこれまでの積み重ねが乏しく、苦労もあると思う。これらのツールをうまく活かして学習意欲を高めていってほしい。 ・保護者もタブレット端末に関係していくのは効果的である。 ・教員の課題に対する改善に向けた意欲も子どもたちの学力定着につながっていると感じることができた。 ・学力が定着していることがわかる。				
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3		3: 80%以上								
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4		2: 75%以上		B	3					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4		1: 75%未満								
		問題解決的な学習方法を取り入れ、意欲的に学習に取り組ませる工夫をし、思考力・表現力を育成する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		1: 75%未満		D	0					
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	生活の振り返りアンケートの「その場になさわしい言葉遣いができていく」において、「よくできていく」「どちらかというとできていく」と回答した児童の割合	4: 80%以上	・低学年は毎学期のいじめアンケート、高学年は学校生活調査(6月・11月)と3学期のいじめアンケートの結果を基に、気になる児童に聞き取りをし、早期発見、解決に取り組むことができた。今後も日々の児童の様子に目を向け、全校体制で取り組んでいる。 ・呼び捨てや、相手を傷つける言動をしないこと、相手がよい気持ちになる言葉発することの大切さなどについて、全校朝会で指導したり、各学級で児童の発達段階に応じて指導したりした。特に、話し方のモデルを示すことで、より児童が実感することができるようにした。 (回答者数 186)	A	9	・コロナ禍で閉鎖的になりやすい環境の中、日々子どもたちと過ごしている教員の子どもたちに向ける目には保護者として感謝している。ストレスを感じることも多いこの世の中、大人もフラストラレーションが溜まり、相手の立場に立って考えられないこともあるので、日常の様子から問題の早期解決ができる取組は大切だと思った。これも、学校と家庭で連携していかなければと感じた。 ・SNSによるトラブルなど、学校にとって目に付きにくい形でのいじめの横行が心配される。スマートフォン等との正しい付き合い方など、実例を基に具体的な指導を引き続きお願いしたい。 ・コロナにより人と人とのつながり、会話や遊びが制限されていたこともあり、些細なことや言葉で心が傷ついてしまうことがあると思う。今後児童の日々の様子や変化に目を向けてくださるようお願いしたい。 ・日常生活では自己の直接的な感情の言葉が出てしまうので、家庭も含めて良い環境づくりに励みたい。 ・自身の体験で、児童から素直な挨拶を頂いた事に心が温かくなった。 ・児童館でも言葉遣いは気になる。友達に対し、嫌な気持ちにさせる言葉や態度が見られる。また、けんかの原因を「あおられたから」と話す児童が多いのが、きちんと原因を伝えられるようになると良いと思う。				
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行なった。 3:学期に1回(年間3回)以上行なった。 2:年度間に1回以上行なった。 1:実施しなかった。	3		3: 75%以上								
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		2: 70%以上		B	1					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		1: 70%未満								
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4		1: 70%未満		C	0					
		気持ちのよい言葉を遣うように、南六郷小学校スタンダードを徹底させる。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		1: 70%未満								
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	生活の振り返りアンケートの「日ごろから積極的に運動に取り組んでいる」において、「よくできる」「どちらかというとできる」と回答した児童の割合	4: 80%以上	・「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組を5月と10月に5日間ずつ実施した。啓発リーフレットを配布するとともにチェックシートを使用して振り返ることによって、基本的生活習慣の確立とバランスのとれた食事が大切であることを児童・保護者に啓発することができた。全家庭が取り組めるようにするために継続して指導していきたい。 ・一校一取組では、マラソン月間(11月)とマラソン大会(12月1日)を設定した。マラソン月間では、休み時間に全校児童が持久走を行うことで、運動習慣の確立を推進した。また、マラソン大会に向けて自主的に持久走に取り組もうとする児童が増えた。一学級一取組を通常で確実に実施できるように、年度当初から計画し、取り組めるようにする。 (回答者数 186)	A	5	・「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組は、日々の生活習慣を見直すのにとともに良いきっかけになると思う。引き続き行ってほしい。 ・忙しい時に手を抜きがちなのが食事作りである。自分の体験では食事内容(特に栄養とバランス)を軽視しがちになる。脳機能・体力機能が落ちると言われている。そして、何か目標に向かって努力することで、心も身体も健康になっていくと感じている。 ・マラソン大会という目標があることで、やりがいを感じられる行事の1つではないかと思う。みんなで走る楽しさもあり、体力づくりに良い取組だと思う。もっと、日々できる体力づくり取組を計画していってほしいと思う。 ・コロナ禍もあり、子どもたちの運動能力の低下が懸念されている。一過性のイベントにとどまらず、子どもたちに運動習慣が身に付くような取組をお願いしたい。 ・マスク着用の制限が緩和されることに伴い、今後は積極的に休み時間等に元気に遊び、持久走に取り組んで走り回る児童が増えるのではないかと。次年度は、70%をはるかに上回るよう期待している。				
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		3: 75%以上								
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		2: 70%以上		B	4					
		オリパ教育を実施するとともに、体力の向上のために一学級一運動の取組やマラソンやなわとび、休み時間の外遊びを励行し、体を動かす習慣をつける。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		1: 70%未満								
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	保護者アンケートの「基礎的・基本的な学習の定着に向けた学習指導を工夫しているか」において、「よくあてはまる」と回答した保護者の割合	4: 95%以上	・月1回、配慮が必要な児童を把握するとともに、スクールカウンセラー・巡回指導教員の児童観察をふまえ、学級における指導や支援の内容を考え、実践することができた。より効果的な支援を行うために、関係諸機関や家庭との更なる連携を図っていく。 ・国語科を中心に実施した研究授業では、「自分の考えを伝えるための表現力の育成」に取り組む、教員の授業力向上と児童の書く力の向上を図ることができた。今後も、校内OJTを充実させる中で授業力向上を目指していきたい。 (回答者数 208)	A	9	・別資料の研究授業のまとめを拝読した。自分の考えを伝えるための豊かな表現力や文章を書くことはとても大切なことである。自信をもって考えを表現できる児童がどんどん増えるよう願っている。 ・学校側の児童に対する細かい配慮に頭が下がる。家庭と学校との連携は大変だと思う。 ・リレケートな児童への対応では、学校と家庭だけでは解決できないことについて専門家の力を借りて、一人一人に合った成長をサポートしていくことが大切だと感じた。 ・若い先生が増える中で、先生方の授業スキルを向上させる取組は重要と考える。学校内の取組に加え、都全体としての通所による研修の充実も検討していきたい。 ・考えを伝える表現力や書く力を育んでいく取組は、ICT社会に向かう中で良い取組だと感じた。 ・自分の考えを伝えること、表現力の育成、難しい問題が大切だと感じる。				
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教師が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行なった。 3:学期に1回(年間3回)以上行なった。 2:年度間に1回以上行なった。 1:実施しなかった。	3		3: 90%以上								
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		2: 85%以上		B	1					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行なった。 3:学期に2～3回行なった。 2:学期1回以上行なった。 1:実施しなかった。	4		1: 85%未満								
		校内研究「自分の考えを伝えるための表現力の育成」に取り組む、教員の授業力と児童の学習環境の向上を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4		1: 85%未満		C	0					
プラン6 学校・家庭・地域と校にも、家庭・地域が一体となって	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	保護者アンケートの「情報提供」「家庭との連携強化」「地域力活用」の全項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した保護者の割合	4: 95%以上	・「スクールサポートなんるく」の部長やコーディネーターと連携を密に。で、「夏のわくわくスクール」をはじめ、地域を生かした外部指導員による授業や工場見学等の校外学習を充実させることができた。今後、連携体制を強化し、新しい取組を充実させていきたい。 ・ウェブ日記は月1回更新できるように計画している。(前月末に、次の月に変更するウェブ日記の計画を各自立て、担当に提出し、各自で更新する。)児童の活動状況は、期間を空けずにできるだけ早く更新することができた。今後積極的に発信していきたい。 (回答者数 209)	A	8	・3年ぶりの夏のわくわくスクールで実施できて良かったと思う。来年度は、地域力をもっと活かした取組になっていけば良いと思う。 ・コロナ禍も落ち着き、地域と学校が連携する行事の増加が予想される。学校支援地域本部が連携の一助となるべく引き続き取り組んでいきたい。 ・学校、家庭、地域の3者の連携が取れている。各々の役割の連携が密であるので、その成果が出ているのではないかと。 ・コロナにより中止になっていた地域教育連絡協議会も通常どおり開催されるようになり、また徐々に学校行事の参観も可能となり、学校や児童の様子が直接分かるようになって良かったと思う。今後情報の共有ができればと思う。 ・児童館前の公園で元気に遊んでいた。乳幼児と遊んであげたりする姿が微笑ましい。一方で、菓子のごみのポイ捨て(時には両手で持ちきれない程)や歩道・車道に飛び出している境こっこ等、規範意識の薄さを感じる。日々指導しているが保護者や地域の方にも更に目を向けていただき、共に育てていくことができれば良いと思う。 ・ウェブ日記には日々の子どもたちの様子が現れて保護者にとって安心につながると感じる。定期的な更新をしてこれからは発信してほしいと思う。				
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4		3: 90%以上								
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行なった。 3:学期1回以上行なった。 2:年1回以上行なった。 1:実施しなかった。	4		2: 85%以上		B	2					
		全教員が学校ホームページ「ウェブ日記」の作成に取り組む。学校での取り組みや児童の様子を積極的に発信する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		1: 85%未満								
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		1: 85%未満		C	0					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。